



水車小屋調査について（自治体・NGOとの協力による 歴史資料保全事業）

河野，未央

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 2(平成15年度事業報告書):77-78

(Issue Date)

2004-03-31

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002192>



水車小屋調査について

神戸大学大学院文化科学研究科院生 河野未央

文化財保護法の一部改正（現行の文化財保護法は昭和25年度に施行）により、建築物や土木構造物については登録制度が採用され、ゆるやかな規制がとられることになった。これを受けて神戸市教育委員会文化財課では、登録対象となる市域の建築物及び土木構造物についての調査を実施している。平成16年（2004）度には、文化財保護法の改正が予定され、文化的景観や民俗技術などが、新たな保護対象となる。

これを受け、同文化財課では、平成16年（2004）3月に、住吉川流域における水車小屋調査をおこなうことになった。これは、水車小屋とそれにつらなる掛樋・水路（開渠・暗渠）などの設備の風化や消失を惜しみ、地域の歴史遺産として残していくことを目的として実施されたものである。

このような調査事業に対して、地域連携センターでは、研究員や専門的知識をもつ学生・院生を、調査補助員（アルバイト）として派遣するという形で協力した。この事業に加わったメンバーは、河野未央（神戸大学大学院文化科学研究科）、人見佐知子（地域連携センター研究員）、村山俊男（神戸大学大学院文学研究科）・静剛（大阪教育大学）・近藤浩二（愛媛大学OM）の5名である。メンバーは平成16年（2004）の3月15日から5日間にわたり、踏査・現状確認・撮影等の調査活動をおこなった。

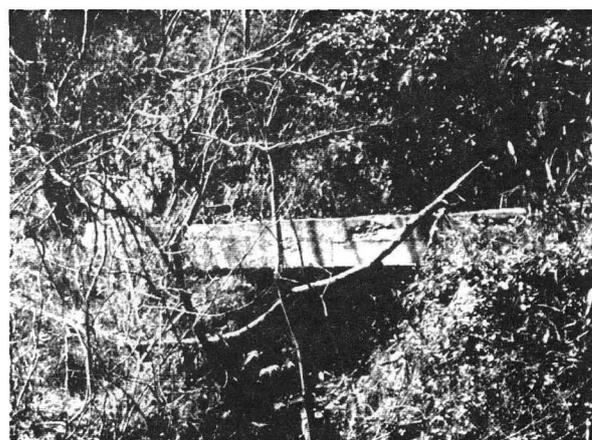
もともと江戸時代から近代初頭にかけて、灘目地域の河川は、水車産業がさかんな所であった。主に絞油や精米に利用されたそれらの水車は、住吉川・都賀川・味泥川水系に多く開かれていたが、とくにたくさん集中していたのが、住吉川流域であった。

この住吉川流域の水車小屋については、すでに平成13年（2001）に文化財課がほぼ全域にわたる調査を実施している。しかし、前回の調査は現状把握が主な目的であったため水車小屋の構造、水車の規模、水路等については必ずしも十分な調査を進められなかった。それらについてのより詳細な調査をおこなうことが、今回の

調査の目的である。ただし、今回は調査日数の制限もあり、調査地域は住吉川流域のうち東谷系統に絞られた。

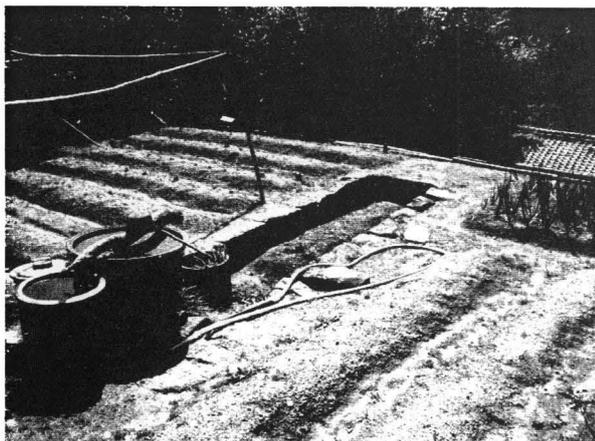
一日目（3月15日）は、事前調査として文化財課の方のご案内により、調査地域である東谷系統を巡見した。これにより、前回の調査では確認できていた八幡場付近の水車小屋はすでに全て取り壊されたり焼失したりして失われていることがわかった。同行していただいた文化財課の方と相談した結果、以降は水車小屋跡地に残された滝壺遺構の実測、取水経路の確定等を中心に調査活動を進めることに決定した。それにしてももう少し早い時点での調査がかなっていれば、と悔やまれてならなかった。

二日目は、取水の始点を確定する作業から始まった。前日の調査よりもさらに上流を目指し遊歩道より奥に藪をかきわけて進むと、八幡場北側、上流の砂防ダム脇の崖より水路跡が確認できたが、これより先に進むことはできず、ここから水を引いていたのか、さらに上流まで遡ることができるのかは確認することができなかった。しかし、そこから水車小屋があったとされる付近までは、水路は非常に良い状態で残存していることが確認できた。



三日目以降は水路に沿って下流へと向かい、水車小屋が建っていたと考えられる平場6ヶ所と滝壺5ヶ所を調査した。前述のような状況であったため、水車小屋の全貌を明らかにすることは

出来なかったが、石臼など水車営業に使用する種々の道具について、散在しつつも多数残されていることを確認した。さらに下流の地点2ヶ所、「石久」（石材所）と甲南斎場南側の七輮場付近とにおいて、水車小屋跡とおぼしき場所が確認できた。ただしこれらの敷地についてはいずれも所有者から立入許可を得る必要があり、今回の調査では遺構の実測までにはいたらなかった。



最終的には東西二手に分かれていた住吉川が合流する地点まで調査を進めた。散歩中の老女に聞き取り調査を実施したところ、かつて水車小屋はこの合流地点まであったそうだが、現時点では目立った遺構は確認できなかった。

実地調査はこの地点で終了し、3月24日・25日には、神戸市教育委員会文化財課の一角を借り、報告書を作成した。

今回の調査では水車小屋自体がすでに失われてしまっており、調査員としては非常に残念な思いもしたが、取水経路をほぼ確定したこと、水車小屋で利用された道具類が残存していることを確認できたことなどの成果も得ることができた。今後はそれらの早急な保存が望まれるとともに、今回調査できなかった地点についてもさらに調査を積み重ねていく必要があると思われる。